

## 6. 気管内挿管直後に換気不全を生じた一症例

納家康男, 遠藤裕一, 高橋 堯<sup>1</sup>

新家 昇

(東日本学園大学歯学部歯科麻酔学講座)

(旭川歯科医師会<sup>1</sup>)

患者は14歳の女子でダウン症候群を合併しており, 術前検査で白血球の軽度増加, 麻酔前日には軽い咳がみられたが, 麻酔当日にはおさまっており, その他には異常所見もみられなかったため全身麻酔を施行した。

麻酔導入はGOFによるマスク導入で行い, 導入中に硫酸アトロピンを静注し, 脈拍数の増加を確認した後, 気管内挿管を行った。ところが挿管直後より左肺野の呼吸

音が聴取できなくなり, 胸部X線撮影で左上中肺野の不透過像と肋間腔の狭小化が認められた。ただちに気管内チューブの交換, 気管内洗浄, 体位変換, 気管内吸引を行ったが症状は改善されなかった。処置終了後, 再び気管内洗浄などを繰り返すうち, 麻酔深度が浅くなりパッキングを生じた。この結果, 呼吸音も改善され, X線上でも不透過像は消失した。術後経過は良好であった。